

青森市の気候変動対策に関する請願（その1）

令和3年8月27日

青森市議会議長 長谷川 章 悦 様

住所 青森市花園二丁目11番12号
団体名 青森の温暖化対策を考える会
代表 中 堀 一 弥

紹介議員 丸 野 達 夫

（請願の趣旨）

昨今、気候変動が原因の可能性が高い異常気象が頻発している。

先日の熱海ほか、海外ではドイツ、イギリス、中国、インドでも非常に大規模な豪雨があり、多くの方が亡くなっている。カナダでは、ヒートドーム現象により気温が49度Cという信じられない猛烈な暑さになり、山火事も頻発している。

青森市でも、海水温の上昇によりホタテの稚貝への影響、積雪量の減少など、事態は表面化、深刻化しており、CO₂排出が続く限り、状況は悪化していくことが懸念されている。

2030年夏には、北極の海氷も消失する可能性があるシミュレーション結果も出てきている。多くのニュースを耳にすると、予想よりも速いスピードで温暖化が進行していると感じている。

このままでは、未来の子どもたちは、炭素排出を全くしていないにもかかわらず、気候変動の影響を大きく受け、豪雨、海面上昇、未知のウイルスへの恐怖、干ばつ、山火事などが多発する地球で生きていかななくてはならない。シロクマをはじめ、多くの動物の絶滅も危惧されている。海の生物の多様性に寄与しているサンゴの白化現象も深刻である。

2015年のパリ協定では、事態を打開するために産業革命前と比べ、できれば1.5度C未満の気温上昇、2度Cより大きく下回る値を目標にしているが、既に1.2度C上昇しており、目標達成は、かなり難しい状況にある。2度Cを超えてしまうと、対策を十分にしても後戻りできないことが危惧されている（ティッピングポイント——転換点の存在がある）。

国でも気候変動を緩和するため、2020年10月に、2050年カーボンニュートラルを宣言し、また、2021年6月には「地域脱炭素ロードマップ」も発表され、カーボンニュートラルの実現に向けた取組が明記された。

多くの自治体もゼロカーボンシティ宣言を表明し、対策に乗り出している。

気候変動の影響をできる限り小さくするには、全ての国、自治体がCO₂排出抑制に前向きに取り組む姿勢が必要であり、青森市でも、より積極的な対策をしていただきたい。

また、最もCO₂を排出している部門は発電によるものであるため、再生可能エネルギーへの移行と省エネルギー化に最優先で取り組む必要があると考えている。

上記の理由により、一刻も早く対策を強化する必要があると考え、市民、官民ともに脱炭素意識を向上させ、市でも積極的に気候変動対策に取り組んでいることを認識してもらうためにも、できる限り早期にゼロカーボンシティ宣言を表明することを求める。

(請願事項)

ゼロカーボンシティ宣言を表明すること。

青森市の気候変動対策に関する請願（その 2）

令和 3 年 8 月 27 日

青森市議会議長 長谷川 章 悦 様

住所 青森市花園二丁目 11 番 12 号
団体名 青森の温暖化対策を考える会
代表 中 堀 一 弥

紹介議員 丸 野 達 夫

（請願の趣旨）

昨今、気候変動が原因の可能性が高い異常気象が頻発している。

先日の熱海ほか、海外ではドイツ、イギリス、中国、インドでも非常に大規模な豪雨があり、多くの方が亡くなっている。カナダでは、ヒートドーム現象により気温が 49 度 C という信じられない猛烈な暑さになり、山火事も頻発している。

青森市でも、海水温の上昇によりホタテの稚貝への影響、積雪量の減少など、事態は表面化、深刻化しており、CO₂ 排出が続く限り、状況は悪化していくことが懸念されている。

2030 年夏には、北極の海氷も消失する可能性があるシミュレーション結果も出てきている。多くのニュースを耳にすると、予想よりも速いスピードで温暖化が進行していると感じている。

このままでは、未来の子どもたちは、炭素排出を全くしていないにもかかわらず、気候変動の影響を大きく受け、豪雨、海面上昇、未知のウイルスへの恐怖、干ばつ、山火事などが多発する地球で生きていかななくてはならない。シロクマをはじめ、多くの動物の絶滅も危惧されている。海の生物の多様性に寄与しているサンゴの白化現象も深刻である。

2015 年のパリ協定では、事態を打開するために産業革命前と比べ、できれば 1.5 度 C 未満の気温上昇、2 度 C より大きく下回る値を目標にしているが、既に 1.2 度 C 上昇しており、目標達成は、かなり難しい状況にある。2 度 C を超えてしまうと、対策を十分にしても後戻りできないことが危惧されている（ティッピングポイント——転換点の存在がある）。

国でも気候変動を緩和するため、2020 年 10 月に、2050 年カーボンニュートラルを宣言し、また、2021 年 6 月には「地域脱炭素ロードマップ」も発表され、カーボンニュートラルの実現に向けた取組が明記された。

多くの自治体もゼロカーボンシティ宣言を表明し、対策に乗り出している。

気候変動の影響をできる限り小さくするには、全ての国、自治体が CO₂ 排出抑制に前向きに取り組む姿勢が必要であり、青森市でも、より積極的な対策をしていただきたい。

また、最も CO₂ を排出している部門は発電によるものであるため、再生可能エネルギーへの移行と省エネルギー化に最優先で取り組む必要があると考えている。

上記の理由により、一刻も早く対策を強化する必要があると考え、市民、官民ともに脱炭素意識を向上させ、市でも積極的に気候変動対策に取り組んでいることを認識してもらうためにも、できる限り早期に意欲的な CO₂ 削減目標を設定することを求める。

(請願事項)

意欲的なCO₂削減目標を設定すること。

青森市の気候変動対策に関する請願（その3）

令和3年8月27日

青森市議会議長 長谷川 章 悦 様

住所 青森市花園二丁目 11 番 12 号
団体名 青森の温暖化対策を考える会
代表 中 堀 一 弥

紹介議員 丸 野 達 夫

（請願の趣旨）

昨今、気候変動が原因の可能性が高い異常気象が頻発している。

先日の熱海ほか、海外ではドイツ、イギリス、中国、インドでも非常に大規模な豪雨があり、多くの方が亡くなっている。カナダでは、ヒートドーム現象により気温が 49 度Cという信じられない猛烈な暑さになり、山火事も頻発している。

青森市でも、海水温の上昇によりホタテの稚貝への影響、積雪量の減少など、事態は表面化、深刻化しており、CO₂ 排出が続く限り、状況は悪化していくことが懸念されている。

2030 年夏には、北極の海氷も消失する可能性があるシミュレーション結果も出てきている。多くのニュースを耳にすると、予想よりも速いスピードで温暖化が進行していると感じている。

このままでは、未来の子どもたちは、炭素排出を全くしていないにもかかわらず、気候変動の影響を大きく受け、豪雨、海面上昇、未知のウイルスへの恐怖、干ばつ、山火事などが多発する地球で生きていかななくてはならない。シロクマをはじめ、多くの動物の絶滅も危惧されている。海の生物の多様性に寄与しているサンゴの白化現象も深刻である。

2015 年のパリ協定では、事態を打開するために産業革命前と比べ、できれば 1.5 度C未満の気温上昇、2 度Cより大きく下回る値を目標にしているが、既に 1.2 度C上昇しており、目標達成は、かなり難しい状況にある。2 度Cを超えてしまうと、対策を十分にしても後戻りできないことが危惧されている（ティッピングポイント——転換点の存在がある）。

国でも気候変動を緩和するため、2020 年 10 月に、2050 年カーボンニュートラルを宣言し、また、2021 年 6 月には「地域脱炭素ロードマップ」も発表され、カーボンニュートラルの実現に向けた取組が明記された。

多くの自治体もゼロカーボンシティ宣言を表明し、対策に乗り出している。

気候変動の影響をできる限り小さくするには、全ての国、自治体がCO₂ 排出抑制に前向きに取り組む姿勢が必要であり、青森市でも、より積極的な対策をしていただきたい。

また、最もCO₂ を排出している部門は発電によるものであるため、再生可能エネルギーへの移行と省エネルギー化に最優先で取り組む必要があると考えている。

上記の理由により、一刻も早く対策を強化する必要があると考え、市民、官民ともに脱炭素意識を向上させ、市でも積極的に気候変動対策に取り組んでいることを認識してもらうためにも、できる限り早期に意欲的な行動計画を立て、実施することを求める。

(請願事項)

意欲的なCO₂削減の行動計画を立て、実施すること。